

New Horizon 第10回 Lessons

Lesson 10-1: 一般動詞の過去形 肯定文

ここでは「私たちはサッカーをしました」「彼は昨日働きました」など『一般動詞の過去形の肯定文』について学びます。基本的な形は、一般動詞の現在形の肯定文と同じなのですが、違いは

一般動詞を過去形にする

というところです。過去形の場合、主語に関係なく同じ過去形を使います。つまり、一般動詞の過去形の肯定文の基本の形は以下の通りとなります。

【一般動詞の過去形 肯定文：基本の形】
主語 + 一般動詞の過去形 (+目的語) (+～) .
(「主語」は「動詞」をしました)

そして、一般動詞を過去形にする方法は、大きく分けると2種類あります。(ただし、今回は「パターン1」だけを練習していこうと思います)

【一般動詞を過去形にする方法】

<パターン1：一般的な動詞 (今回練習) = 一般動詞の最後を ed の形にする>

1. **ed を足す場合** = 多くの一般動詞 (単語の最後が「子音+y」の場合、**y→i** にして ed)

<例> We played soccer. (私たちは、サッカーをしました)

He studied English with me. (彼は、私と英語を勉強しました)

*study は、最後が「子音+y」なので、studiedとなる。

2. **d を足す場合** = 一般動詞の最後が e で終わる

<例> She liked her new office. (彼女は、彼女の新しいオフィスが好きでした)

They used this room. (彼らは、この部屋を使いました)

<パターン2：不規則動詞 (次回練習) = 動詞が持っている独自の過去形の形にする>

一般動詞の最後を ed の形にするのではないので難しい。

<例> I ate a hamburger yesterday. (昨日、私はハンバーガーを食べました)

*食べた = ate (eated = ✕)

He came to our office. (彼は、私たちのオフィスに来ました)

*来た = came (comed = ✕)

【一般動詞の過去形の肯定文：作り方】

ステップ1：現在形の肯定文を作る。

ステップ2：動詞を過去形に変える。

<例1> 「私たちはサッカーをしました」という文を作る場合

ステップ1：現在形の肯定文を作る。 → 私たちはサッカーをします。

We play soccer.

ステップ2：動詞を過去形に変える。

We played soccer.

<例2> 「彼は私と英語を勉強しました」という文を作る場合

ステップ1：現在形の肯定文を作る。 → 彼は私と英語を勉強します。

He studies English with me.

ステップ2：動詞を過去形に変える。

He studied English with me.

【ポイント！】

1. want to ～の過去形

「～したかった」といった、want to ～ を過去形にする場合、want だけを過去形にし、to の後の動詞は過去形にしないので注意。

<例> She wanted to use this. (彼女はこれを 使いたいと思っていました)

《She wanted to used this. =×》

2. enjoy ~ing / like ~ing の過去形

「～をするのを楽しんだ」「～するのが好きだった」といった、enjoy ~ing / like ~ing を過去形にする場合、enjoy / like だけを過去形にし、~ing はそのままとなるので注意。

<例> We enjoyed playing soccer. (私たちはサッカーをするのを楽しみました)

《We enjoyed played soccer. =×》

3. 過去形の文によく登場する yesterday / last ～ といった副詞 (句)

yesterday (昨日) は、today と同じように、また last ～ (前回の～ / 最後の～) は、every ～と同じように、前置詞を置かず文章の最後に置かれる形でよく使われる。

<例> I played soccer yesterday. (私は昨日サッカーをしました)

<I played soccer on yesterday. = ×>

We used it last Monday. (私たちは、それを前回の月曜日に使いました)

<We used it on last Monday. = ×>

Lesson 10-2: 不規則動詞

そして、一般動詞の過去形の文をマスターするのに最も大変とされるのが、単語の最後を ed にするだけでは、過去形にできない「不規則動詞」を覚えることです。もうすでに練習で登場している動詞の中にも不規則動詞はたくさん含まれています。例えば以下の動詞は不規則動詞となります。

意味	原形	過去形
食べる	eat	ate
行く	go	went
する	do	did
書く	write	wrote
持っている	have	had
手に入れる	¹ get	got
見つける	find	found
持ってくる	bring	brought
読む	read	² read

意味	原形	過去形
作る	make	made
走る	run	ran
買う	buy	bought
見る	see	saw
来る	come	came
泳ぐ	swim	swam
言う	say	said
勝つ	win	won
置く	put	put

1. get up などの句動詞を過去形にする場合は、got up と一般動詞を過去形にする。
2. read の過去形は、read とスペリングは同じだが発音は red (赤) と同じ「レッド」となる。

<例> I **ate** three hamburgers yesterday. (私は昨日ハンバーガーを3つ**食べました**)
He **went** to the station by bus. (彼はバスで駅に**行きました**)
They **bought** this computer. (彼らがこのパソコンを**買いました**)

不規則動詞の覚え方ですが・・・

残念ながら基本的には暗記するしかありません (泣)

ただし、不規則動詞の中には、同じように変化するものも (例えば、buy の過去形のように語尾が ought になる過去形や、原形と形が変わらない動詞など) ありますので、種類に分けて覚えるのは一つの方法かもしれません (参考程度に解答集の最後に中学でよく登場する不規則動詞のリストを載せておきますね)。

Lesson 10-3: 文頭に置ける副詞 (句)

sometimes / on Monday など、副詞 (句) によっては、文頭に置くことで文全体を修飾することができます。

1. sometimes / on Monday など、文の中間や最後に使っていた副詞 (句) は文の先頭で使うことができる (この時、カンマが打たれることが多い)。
2. 文の先頭に持って来ることで、**文全体を修飾することができる**。

3. 1文に動詞が2つ以上登場する場合、副詞（句）がどちらの動詞にかかっているのか、はっきりさせるために使われる。

<例1> I sometimes go to the library and study English.

(私は時々図書館に行って英語を勉強します)

【解説】基本的に sometimes がかかるのが go to the library となる。つまり「私は家やカフェで英語を勉強することもあります、時々図書館に行って英語を勉強します」という意味で捉えることもできる。

<例2> Sometimes, I go to the library and study English.

(時々、私は図書館に行って英語を勉強します)

【解説】文頭に sometimes があるため、文全体を sometimes という単語で修飾する形となり基本的に「私は日頃いろいろなことをしていますが、時々図書館に行って英語を勉強します」という意味となる。

4. on Monday のように、副詞句でも同じ考え方ができる。

<例1> I did my homework and *gave it to Ms. Yamada on Monday.

(私は宿題をして山田先生に月曜日に渡しました) *gave = give の過去形

【解説】「宿題を山田先生に渡したのが月曜日」というのは、はっきりしているが「私が宿題をした日」は月曜日でない可能性がある。

<例2> On Monday, I did my homework and gave it to Ms. Yamada

(月曜日に私は宿題をして山田先生に渡しました)

【解説】文全体を「月曜日に」という副詞句で説明しているため、「宿題をした日」と「それを山田先生に渡した日」が同じ「月曜日」だということがわかる。

5. しかし、**副詞（句）の全てを文頭に置けるわけではないので注意**。副詞（句）は、種類によって文頭に置ける場合と置けない場合がある。

【文頭に置ける副詞（句）の種類と例】

種類	例
明確な時間を表す副詞	today（今日） / on Sunday（日曜日に） / yesterday（昨日） last ～（前回の～ / 最後の～）
頻度を表す多くの副詞	sometimes（時々） / usually（たいてい）
追加を表す副詞	also（～もまた）
順番を表す副詞	first (of all)（第一に） / second（二番目に） / at the end of ～（～の最後に）
場所	in Japan（日本では） / in my city（私の市では）
* 「頻度を表す副詞」でも <u>always / often</u> は文頭では使えないので注意！	

<例> Yesterday, I went to the supermarket. （昨日、私はスーパーに行きました）
In Japan, many people have smartphones. （日本では、たくさんの人がスマホを持っています）

【文頭に置く副詞（句）の文：作り方】

ステップ1：「副詞（句）」と「残りの文」に分ける。
 ステップ2：「副詞（句）＋カンマ＋残りの文」の形にする。

<例：昨日、私はスーパーに行きました>

ステップ1：「副詞（句）」と「残りの文」に分ける。

副詞句：「昨日」 = yesterday 残りの文：「残りの文」

I went to the supermarket.

ステップ2：「副詞（句）＋カンマ＋残りの文」の形にする。

Yesterday, I went to the supermarket.

Lesson 10-4: 様々なフレーズ⑦

1. lots of / a lot of = たくさんの / 多くの

<例> I have lots of water. <私はたくさんのの水を持っています>
 He had a lot of cars. <彼はたくさんの車を持っていました>

〔補足説明〕

lots of / a lot of は、可算名詞・不可算名詞の両方で使える。ほとんど同じ意味で many / much という単語がよく使われるが、many は可算名詞のみ。much は、不可算名詞のみで使うことができる。また、much あまり肯定文では使われず、否定文で使われることが多い。

<例> I don't have much water. <私はたくさんのの水は持っていません>
 He had many cars. <彼はたくさんの車を持っていました>

2. have a good time = 良い時間を過ごす / 楽しむ

<例> We had a good time at the festival. <私たちは、お祭りで良い時間を過ごしました>

[補足説明]

good の代わりに great や wonderful といった単語もよく使われる。また、time の代わりに day を用いて Have a good day. とすると「良い一日を」という別れの挨拶にも使うことができる。

3. come on = さあ (行こう) / 頼むよ / いいじゃんか

<例> Come on. Don't be shy. <さあ。恥ずかしがらないで>

[補足説明]

Come on には、様々な使われ方があるため、文脈からどのように使われているか推測する必要がある。

4. together = 一緒に (副詞)

<例> Let's do it together. <一緒にそれをしましょう>

[補足説明]

together と似た意味で with という単語があるが、with の場合「～と一緒に」と何と一緒になのか対象が必要となるが、together はただ「一緒に」という意味を足すだけとなる。

<例> Do you want to play with us? (あなたは、私たちと一緒に遊びたいですか)

<私たちと一緒に遊ぶことがはっきりしている>

Do you want to play together? (あなたは、一緒に遊びたいですか)

<誰と一緒に遊ぶかは分からない>

5. a (big) fan of ~ = ～の (大) ファン

<例> I'm a big fan of Masato. <私はマサトの大ファンです>